



欄に数値またはコメントを記入

| | | | |
|----------------|--------------------|--------|-----|
| 1. 建物概要 | | | |
| 建物名称 | 株式会社アコー様 五十子工場新築工事 | BEE | 0.8 |
| | | BEEランク | B- |
| | | | ★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | |
|--|--------|---------|------------|
| 重点項目 | 得点*/満点 | 取組み度 | 評価 |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.0 /5 | | ふつう |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 2.7 /5 | | がんばろう |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 2.8 /5 | | がんばろう |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.6 /5 | | がんばろう |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | 評価 凡例 | |
| | | よい 4点以上 | ふつう 3点以上 |
| | | | がんばろう 3点未満 |

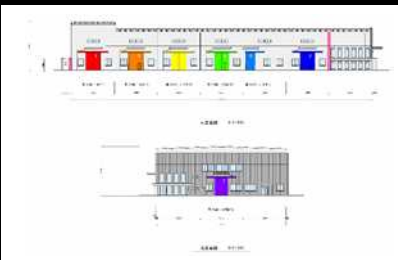
| | | | | |
|--|---|---|---|-----|
| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | | |
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming) | | 得点 | 3.0 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①窓U=6.00(W/m) 外壁U=0.49(W/m) ③ブラインド又はカーテンによりグレアを制御 ④外壁 金属製断熱サンドイッチパネル 15~20年以上(塗装塗替え) 内装 クロス貼り 10年程度 設備配管・ダクト 30年以上 主要設備機器 15年程度 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑩運用管理体制を組織化している。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水コマを採用。 ⑫S造につき、解体時に躯体と仕上げ材の分別が容易。 ⑬屋内消火栓 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) | Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.21 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮ | ① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑩ 生物環境の保全と創出 ⑪ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑬ 自然エネルギー利用 ⑭ 設備システムの高効率化 ⑮ モニタリング ⑯ 運用管理体制 ⑰ 節水 ⑱ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑳ 材料使用量の削減 ㉑ 既存建築躯体等の継続使用 ㉒ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉓ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉖ 有害物質を含まない材料の使用 ㉗ 消火栓 ㉘ 断熱材 ㉙ 冷媒 ㉚ 地球温暖化への配慮 ㉛ 温熱環境悪化の改善 | | |
| | "災害に強いしずおか"の形成(Disaster) | | 得点 | 2.7 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法の1.2倍 設備機器は耐震クラスB以上で設置予定 | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰ | ⑰ 耐震性 ⑱ 免震・制振性能 ⑲ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑲ 電気設備 ⑲ 機械・配管支持方法 ⑲ 通信・情報設備 | |
| | | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design) | | 得点 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑱心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳壁長さ比率=0.09と間取り変更には柔軟に対応できる。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯ 3 3.1 3.1.1 ⑱ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑ | ⑯ ユニバーサルデザイン計画 ⑱ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上 | | |
| | "緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature) | | 得点 | 2.6 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) | Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑦ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮ | ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑦ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善 | | |

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|----------------|
| 建物名称 | 株式会社アコー様 五十子工場新築工 | 階数 | 地上2F |
| 建設地 | 静岡県磐田市五十子字西本田405番 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 用途地域指定なし、防火地域指定なし | 平均居住人員 | 30人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 1,760時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 工場 | 評価の段階 | |
| 竣工年 | 2022年3月 予定 | 評価の実施日 | 2021年6月30日 |
| 敷地面積 | 28,820 m ² | 作成者 | 安井 孝浩 |
| 建築面積 | 3,152 m ² | 確認日 | 2021年7月2日 |
| 延床面積 | 3,247 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|--|--|
| 総合 | | その他 |
| <p>磐田市五十子に新設する集塵機製作工場である。その用途上、ほとんど周辺環境に影響を及ぼさない建築物であるが、敷地周辺は平野部の田圃地帯なので眺望を阻害しないよう、景観や既存施設になじむよう配慮した。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。</p> | | |
| Q1 室内環境 | Q2 サービス性能 | Q3 室外環境(敷地内) |
| 工場用途になるが、執務スペースとして生産ラインの為の小規模な事務所と休憩室を評価対象とした。ホルムアルデヒド対策において建材はF☆☆☆☆以上を用いる計画としている。 | 「空間のゆとり」や「荷重のゆとり」があることで、将来の設備機器の更新やレイアウト変更へ順応でき、建築物を永く使い続けられる。 | 公共空間からほとんど見えないが、建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。建物は長方形で死角になるクランク部がないので防犯性も配慮している。 |
| LR1 エネルギー | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境 |
| 建築物省エネ法は工場モデルとなる為、照明設備の一次エネルギーのみの評価となるが、外気にふれる部位は断熱を施し、建物外皮の熱負荷抑制にも配慮している。 | 基礎下碎石、土間下碎石には再生材を積極的に採用している。 | 燃焼機器の使用が無い為、大気汚染対策に配慮している。屋外広告物照明が無いことにより、周辺環境へ配慮している。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい